



サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

今日では、町全体がオラトリオです。大都会は、私たちのミッションの最も差し迫った前線です。私たちは都会で、夢と可能性に満ちていながら、同時に孤独な、顔の無い存在になり、意味を探し求める若者たちに会います。まさにそこで、日常生活のただ中で、神は私たちを待ってられます。

サレジオ家族として、耳を傾け、共に歩み、共同体を築き上げる存在となるよう、私たちは呼ばれています。一人ひとりとすべての若者は心に善の種を持っている、その種が花開くために、それを喜んで迎え、育まなければならないと、ドン・ボスコは私たちに教えてくれました。

都会で福音を宣教するということは、距離ができていところに橋を築き、無関心が支配する場で出会いを促進し、多くの人が未来を夢見るのをやめてしまったところで希望を差し出すことです。宣教のために創意工夫し、サレジオの心で、今日の若者たちが暮らし、夢を見る、新たな「運動場」で、キリストの愛を目に見えるものにしましょう。

キリスト者の扶け聖マリアが、この旅を私たちと共に歩んでくださいますように。

Raffaello

■ 青少年司牧顧問
ラファエル・ベハラーノ神父, SDB

大都会で福音を告げる： 現代の新たなサレジオの前線

ブラジル、アマゾン地方の州都マナウスを最近訪れたとき、私は「都市の宣教者」たちと会いました。250万の人々が暮らすその大都会で福音を告げ知らせる、若者、大人たちです。喜んで彼らを迎える人々もいれば、拒絶する人々もいます。それが今日、大都会における福音宣教の現実です。今や、人類の半数以上が都市に暮らしています。都市の特徴は、多様性、流動性、テクノロジーでつながった社会、そして著しい社会的な不平等です。最高評議会が教皇レオ十四世に謁見したとき、教皇は、そのような大都会で、**そこに住む人々の言葉、文化、直面する問題を理解することのできる「都市の司牧奉仕職」**を発展させ、勇気をもって福音を告げ知らせ続けるようにと、私たちを励ましました。

都会では多くの若者が、孤独や断片化した生活を経験しています。多くが信仰に無関心か、あるいは信仰がただ「眠った」状態でいます。それでも、ほかの多くの若者が、生きる意味や友情、帰属する場所、希望、光を探し求めています。教皇レオは、宣教する教会となるよう、決してたゆむことなく私たちに呼びかけています。現代の都市で福音宣教するには、教会の建物の中にとどまらず、家庭や学校、大学、職場、社会のネットワーク、文化活動の場に共にある、そして何よりも社会の辺縁にいる人々と共にある教会が必要です。今日、宣教師になるために海や荒野を越えて行く必要はありません：福音の喜びを必要とする弱い立場に置かれた子どもや若者と出会うには、家、共同体、学校の外へ一歩踏み出すだけで十分です。**福音宣教とは、若者が神の愛といつくしみを体験できる、出会いの場を創り出すことです。**多くの若者が自分を顔の無い存在のように感じ、孤立しているところで、キリスト者の共同体、サレジオの共同体は、その一員となれる、兄弟愛を経験できる場になることができ、信仰と聖性への道を開くのです。

この挑戦に取り組むには、**創意工夫、勇気、協働**が必要です。私たち - 地方教会、サレジオ家族、信徒、教育者、父母、子ども・若者 - は共に、交わりと奉仕を通して、都市の生活のただ中に福音をもたらすよう、呼ばれているのです。その機会を逃さないようにしましょう！

■ 宣教顧問 ホルヘ・クリサフッリ神父, SDB

振り返りと 分かち合いのために

- 自分の日常生活の中で、生きる意味や友情を探し求めている人に会えそうな場はどこだろうか？
- 宣教者を自分は喜んで迎えたほうだろうか、それとも無関心だっただろうか？



ブラジルからケニアまで： 大都会からサレジオの声



ピーター、ジャン、あなたがたは二人とも大きな町に暮らし、働いています。そこに暮らす若者たちと本物の絆を築こうとするときに会う、最も大きな挑戦は何ですか？

PT：若者たちの生活に深くかかわるのは難しいです。彼らは多くの時間、デジタル機器を使って過ごしているからです。自分の小さな世界に住み、そこでは、ひっきりなしにあふれるさまざまな情報が彼らの心を捉えます。そのため、しだいに、本物の人間関係から遠ざかってしまいます。その結果、若者たちは生活の中で孤独を感じています。

JK：ブラジル南部の私たちが暮らし働く場の状況は、大きな挑戦を私たちに投げかけます：生活リズムのあわただしさ、格差のある社会、そして時には深刻な孤独の広がる現実のただ中で、若者たちに出会いに行くという挑戦です。本物の絆を築くには、親しみやすく、飾らない、喜びに満ちた存在になることが求められます。『福音の喜び』で強調されているように、耳を傾け、対話に取り組み、支えることのできる存在です。

ドン・ボスコは当時の町の通りや広場で若者たちと出会いました。今日の都会の新たな「通りや広場」とはどこでしょうか、また、お二人の置かれた状況で実際に効果を発揮するのは、どのような創意工夫のあるアプローチでしょうか？

PT：若者たちが（考えや能力を）分かち合える教室やクラブ；楽しく過ごす運動場；私たちがコミュニケーションを保つソーシャルメディアです。若者たちは、サレジオ会員によってどんな時も信頼され、大切にされ、共に歩んでもらっていると感じるとき、孤独から抜け出せます。私のミッションでは、スポーツや音楽活動で、競い合う要素を取り入れると効果的です。

JK：今日の「通り」はソーシャルメディア、学校、町の中心、社会の辺縁です。私たちの置かれた状況では、回勅『マニフィカ・フマニタス』に触発され、教育的な、家庭的な、人を温かく迎える存在であることは、若者の信頼を勝ち取り、彼らの心を福音に向けて開かせます。

大都会でのミッションをこれから始めようとしている若いサレジオ会員 - もしかするとミッションの大きさに圧倒され、自分にできるのか不安を感じている会員に、何とってあげたいですか？

PT：自分が受け入れられる前に、まず人々を尊敬、堅忍、忍耐、喜び、熱意をもって、受け入れてください。自分自身の成長に投資し、能力を育ててください、特に今のトレンドや現実について最新のことを知っているようにしましょう。

JK：若いサレジオ会員にこう言いたいです：勇気を出して、信仰を保って！ 共にいること、親しみやすい存在であること、真実な姿勢で接することから始めてください。ここでは、若者たちは信頼できる手本になる存在を探し求めています。ドン・ボスコのように、親しく共にあること、優しさ、喜びの力をいつも信じてください。



ピーター・チー, SDB



ジャン・カソング, SDB

私はベトナム出身です。サレジオ会員としての初期養成・修練準備期、修練期、ポストノビス - を終えた後、南スーダンのミッションに派遣され、そこで2022年から2024年にかけて実地課程を過ごしました。今、ケニアのナイロビで神学を学んでいます。

私はコンゴ民主共和国（AFC管区）出身です。教育学の資格を持ち、大学で哲学、教育科学を修めました。第154回宣教派遣のメンバーです。2024年から、サレジオ会、ブラジル・ポルト・アレグレ管区（BPA）で宣教しています。



8月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

福音宣教

都会における福音宣教
(教皇レオ十四世の祈りの意向)

顔の見えない群衆、孤独がしばしば代名詞となる大都会で、創意工夫をもって共同体を築き上げる道を見いだしながら、福音を告げ知らせる新たな方法を、私たちが見つけることができるよう、祈りましょう。
(サレジオ会の宣教の祈りの意向)

